ミニ企画展コーナー

日本画・吉原雅風展

～ごあいさつ～

絵画の種類は、大きく分けると日本画と洋画に分かれます。熊谷における日本画の歴史は、江戸時代末から明治初めに活躍した樋口春翠、荻原春山、福島春眠の狩野派の影響を色濃く受けた画家が見受けられます。

その後、洋画と日本画の双方で、日本の風景美を表現した森田恒友や、大正から昭和に日本美術院院友として活躍した妻沼出身の画家の岡田雄毓、そして日本美術院の同人として、中央画壇をけん引している大野百樹氏など、多数の日本画家を輩出しており、その中に、明治から昭和にかけて活躍した吉原雅風がいます。

雅風は、明治15年熊谷町竹町（今の熊谷市鎌倉町付近）にあった吉原写真館、吉原秀雄の長男として生まれました。小さい頃から絵を良くし、東京美術学校（現東京芸大）日本画科に入学、橋本雅邦に師事し、いとこである深谷出身の酒井天寿とともに日本画を学びました。明治32年から連合絵画共進会に出品をはじめ、卒業後は二葉会に出品を重ね、39年から同会の評議員をつとめました。大正期以降は、おもに文展、帝展に活躍の場を移し、多くの作品を残しました。

雅風はその受賞作のほとんどが風景・山水画で、文展での連続入選によって帝国絵画協会員に推薦されるほどになりました。その作品は、墨線を主体とした穏健で堅実な作風で、市指定文化財「臨池洗硯」は池畔で硯を洗う人物を配し、その後方に竹を組んだ塀などが細密に描写され、竹林越しの空の淡い朱色が、見る人々にほのぼのとした心のぬくもりを感じさせる作品です。

このように、中央画壇で多くの作品を発表した雅風ですが、昭和4年12月に病がもとで、惜しまれつつ48歳の生涯を閉じました。

今回のミニ企画展では、当館の所蔵品を中心として、雅風の風景・山水画を中心に展示いたします。郷土熊谷の代表的な日本画家の一人である吉原雅風の作品、その彩色豊かでかつ墨の濃淡による表現の素晴らしさを感じていただければ幸いです。さらには現在に至るまで多くの著名な画家を輩出している郷土熊谷の、芸術・文化の豊かさを再認識していただければ幸いです。

暮れゆく秋

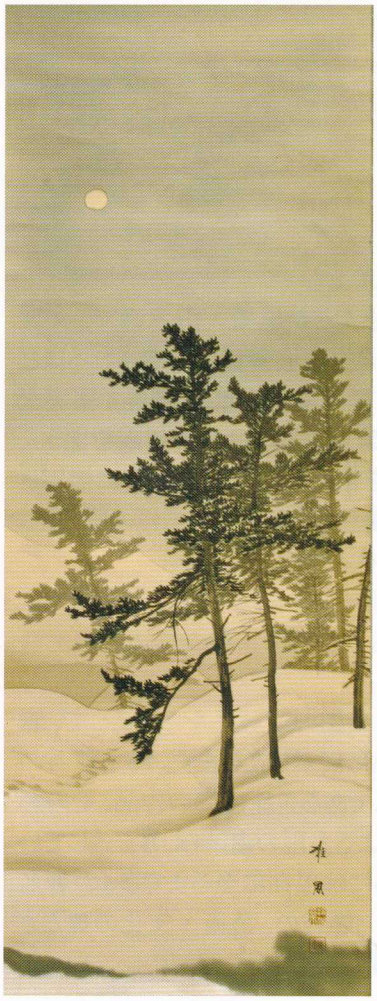
会期：平成30年12月18日（火）～平成31年3月3日（日）

会場：熊谷市立熊谷図書館 3階 郷土資料展示室

［休館日：毎週月曜日（祝日を除く）、12/25、12/28～1/4、1/15、2/1、2/12、3/1］

時間：午前9時～午後5時　入場無料

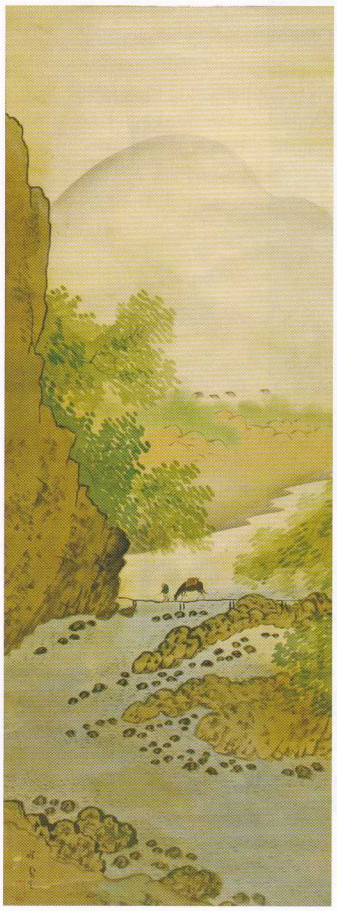
主催：熊谷市立熊谷図書館　住所：熊谷市桜木町2-33-2　電話：048-525-9463



雪月図

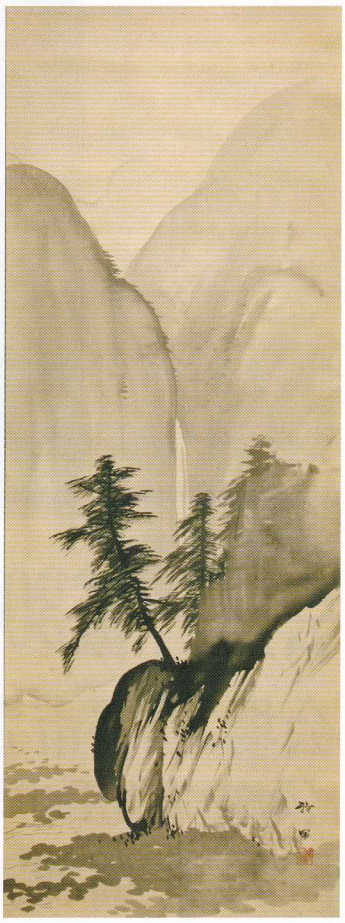
東海旭日図

鶴と松



桟径

雪景図



山水図

※このチラシは、2,000枚制作し、制作費用は1枚あたり12.8円です。